

2021. 10. 30

島国の特性を生かした 済州道の試み

金 泰 坤

韓国農村経済研究院

1. 国の政策

- 「炭素中立緑色成長基本法」(2010)
- 2030年の温室ガス減縮目標

	2030年目標	基準年度
2020.12 決定	24.4%	2017年
2021.10 修正	40.0%	2017年

- 争点
 - 原則は、「必環境」の社会的雰囲気で賛成
 - 各論は(エネルギー、地域、産業、企業等)、世論分裂
 - “国家主導だ” “目標が高過ぎる”
 - 背景には、排出量が増加

1. 国の政策

■ 国の主な施策

- エネルギーの転換
- 排出権取引制度
- 農業農村自発的温室ガス減縮事業
- 低炭素農産物認定制度等

2. 済州道の気象

■ 気象の現状

	済州道	全国平均
年平均気温(°C)	14.4	12.8
年間降水量(mm) (山間部 3,367)	2,166 (山間部 3,367)	1,359
降水強度(mm/日)	19.5	16.5
有霜日数(日)	35.0	07.2

■ 特徴と課題

- ・亜熱帯性へと転換
- ・自然災害の増加等で、生活や産業面から緊急的な対応

3. 濟州道の試み

- 国家主導の中で、自治体の役割
 - 家庭、商業、公共、道路・輸送、農畜産、廃偽物等

- 濟州道の集中分野
 - 建物(家庭、商業)
 - 輸送
 - 森による吸収

3. 済州道の試み

■ 気候変化に対応した特徴的な事業(2020年)

- 家庭
 - 500万株の植林や山林災害の予防(吸収)
 - 炭素ポイント制度の拡大
 - グリーン・ホームの普及

- 公共
 - 海上風力発電や新再生エネルギーの拡大

- 輸送
 - 電気自動車や軽車の普及
 - 新概念の交通システムの転換

(終わり)